

(別紙)

令和3年度 政務活動研究報告書

◎政務調査の実施内容

実施者氏名：岡 省吾

実施年月日：令和3年7月29日、30日

実施場所：古座川町役場会議室、口色川会館

研修先説明者：古座川町役場職員・古座川ジビエ山の光工房職員

那智勝浦町役場職員・色川地域振興推進委員会役員

実施内容：有害駆除で捕獲されたイノシシ・シカを解体し、食肉として流通させる取り組みを行っている古座川町。

また、かねてより移住定住施策を展開されている那智勝浦町色川地域に伺い、視察調査を行いました。

なお、今回の視察は、初日のみ橋本市議会から1名（市職員1名、猟友会員1名同行）、両日研修に紀美野町議会から2名、広川町議会から1名、有田川町議会から私が参加。

時節柄、新型コロナウイルス感染症対策に万全を期しての合同視察研修となりました。

～7月29日～

*「古座川町におけるジビエの取り組みについて聞く」

説明者：古座川町役場 地域振興課職員 細井 孝哲 氏

古座川ジビエ山の光工房 森田 裕三 氏

古座川ジビエ山の光工房 ジャイアン貴裕 氏

☆「古座川ジビエ山の光工房を設置」

◎いきさつ

町の主産物であるゆずの木の皮をシカに食べられる獣害被害に悩まされていることから獣害対策として、防除・追払い・捕獲・利活用に取り組む。その一環として、平成27年に処理加工施設「古座川ジビエ山の光工房」を建設し、ジビエの普及に合わせて食肉流通を展開されている。

◎「ジビエ山の光工房」建設事業概要

*総事業費…6786万8247円

*財源…(国)鳥獣被害防止総合対策事業交付金 1980万円

(県)農作物鳥獣被害防止総合対策事業 150万9000円

計 2130万9000円(残りは過疎債を充当)

*建物構造…木造平屋 延床面積 125.08m²

*運営…(一財)古座川ふるさと振興公社に指定管理(指定管理料 年間160万円)

*職員数…3名(地域おこし協力隊1名、鳥獣被害対策実施隊2名)

*収支状況…売上高 1200万円(うち経常利益は173万4000円)

*処理数…平成30年 イノシシ 88頭、シカ 439頭

令和元年 イノシシ 120頭、シカ 492頭

令和2年 イノシシ 162頭、シカ 366頭

◎シカ・イノシシの個体を買取る

獣害駆除や猟期に捕獲したシカやイノシシを施設に持ち込めば（持ち込みが困難な方には出向いて回収することもある）解体し精肉後、重量に応じ買い取っています。

* 買い取り可能期間…通年（一年中）

* 買い取り金額（オス・メス同価格）

○シカ…18 kg以上 肉質良 500 円/kg 肉質不良 300 円/kg

○イノシシ…25 kg以上 A ランク 1300 円/kg B ランク 1000 円/kg 脂なし 300 円/kg

= 上記の重量は基準値 =

* 引き取り不可の個体

○銃器等で腹部内臓を損傷した個体

○止め刺し後、2 時間を経過した個体

○交通事故、変死体、病気にかかった個体

◎衛生管理・品質を徹底した施設

1) 搬入口で検査・洗浄

電動ウインチで個体を懸吊し、被毛などに付着している寄生虫をバーナーで焼却、高圧洗浄機で洗浄する。



2) 一次処理室で検査・内臓摘出・剥皮・洗浄

電動皮剥機を導入。皮の有効活用・解体作業時間の短縮・解体時に個体をなるべく触らないよう衛生面を考慮。（一頭あたり 10 分～15 分で捌くといいです）



3) 冷蔵室にて精肉を熟成

枝肉の状態ですら一定期間、低温（0℃～1℃）で熟成し、旨み成分を引き出す。



4) 二次処理室にて加工

スライサー・真空包装・瞬間液体凍結機などを完備。捕獲者や捕獲日・捕獲場所・捕獲方法などを表示し、追跡調査が可能となるようラベルプリンターも設置。また、金属検出機にて銃弾の破片など異物混入の有無をチェックする。



5) 冷凍室にて保管

品質を維持するため-30℃で冷凍し、出荷を待ちます。

～解体後の残渣処理について～

残渣は、以前まで産廃処理業者に依頼をしていたが、処理費が嵩んだ。そのため、保健所の指導の下、許可を得て、小型焼却炉を導入し残渣を処理している。

◎さまざまな職歴・経歴を持つ職員皆さん

この施設は 3 名の職員で運営。1 名は事務を担当する地域おこし協力隊の女性。

解体については 2 名の鳥獣被害対策実施隊（両名男性）が作業されています。

1 名の方は、ドイツ国家認定メッツガー（ウインナー加工）マイスターの資格を持つ古座川町出身の方。もう 1 名の方は、千葉県から古座川町に移住され、今も現役の総合格闘家としてリングに上る方であります。

◎販路確保の取り組み

ジビエ肉の流通に関して、栄養価や美容食として現在、着目されているところではあるが、いまだ知名度不足が最大の弱点。

そのような背景を受け、販路拡大・知名度向上に向けての取り組みがなされている。

○パン工房「カワ」とのコラボ

鳥取県で開催されたご当地バーガー日本一を決める大会「第6回とっとりバーガーフェスタ2016」にパン工房「カワ」とコラボして出場。

シカ肉をパティに使用したハンバーガー「里山のジビエバーガー」が見事グランプリに輝き、全国的に知られるようになった。「カワ」の店舗においても主力商品として店頭に並んでいる。

○東京の一流シェフとの繋がり

古座川町が行うイベントや商談会などがきっかけとなり、東京の有名店を運営する一流シェフとの繋がりができる。その輪が多くシェフに広がり、食材としてジビエ肉の料理が各自のレストランで提供されるようになる。

首都圏でジビエ肉の認知が深まり、テレビ番組（カンブリア宮殿）にも取り上げられるまでに。

○古座川ジビエを学校給食に

まずは地元住民の意識改革からということで、地元住民に古座川ジビエを使った本格的なフランス料理を提供し、ジビエの価値観を改めて認識してもらう。

その後、学校関係者や保護者への説明、理解を仰ぎ、ジビエ料理の学校給食が導入される。最初は、親しみやすい「ジビエバーガー」からスタートし、現在は月に1回、「ジビエカレー」、「ジビエシチュー」、「ジビエコロッケ」などを提供されている。

○シカ肉の栄養価に着目

～シカ肉は天然のプロテイン～

総合格闘家であるスタッフの取り持つ縁で有名格闘家との繋がりも大きな要素。

シカ肉は牛肉や豚肉、鶏肉と比べて、栄養価が格段に豊富な上、カロリーが極端に低くヘルシーという特性を持つことから、健康&美容食、またアスリート向けの食材として重宝されている。『山の光工房』ではそれら特性に着目し、ジビエ加工品の開発、商品化で販路の裾野を広げている。

○剥皮も無駄にせず

シカ皮を革製品として有効利用しようということで、「和歌山のシカを、和歌山でなめし、和歌山でつくる」というコンセプトのもと、プロジェクト事業が展開されている。シカ皮で作った財布や名刺入れ、カバンなどの革製品を多くの皆さんが購入され愛用されている。

夏場はイノシシ肉の脂が少ないため、加工品に回すとのことであります。

シカ肉については季節に関係なく、肉質が変わらないため首都圏などへの販売流通に乗せやすいとのことであります。

ここには、ウインナー加工のマイスター認定をもつスタッフもおられますから、優れた加工技術に裏付けられた商品レベルも高いことがうなずけます。加工技術に長けたスタッフ、アスリートを通じての宣伝効果を存分に発揮できるスタッフの在籍はこの施設の宝でもあります。

「古座川ジビエ山の光工房」で精肉されたシカ肉を『古座川清流鹿 金もみじ』というブランド名で売り出し、知名度向上と比例して、売り上げも上昇しているようであります。

～7月30日～

＊「色川地区の活性化と移住・交流促進の取り組みを聞く」

説明者：那智勝浦町役場 観光企画課職員 赤岡 誠 氏
色川地域振興推進委員会 会長 新宅 伸一 氏
色川地域振興推進委員会 副会長 原 和男 氏

☆「色川地域振興推進委員会を組織する」

◎色川地域の概要と人口推移

那智勝浦町色川地区は9集落で構成されており、面積76.23km²。町全面積の約41%を占める地域。面積に対する林野率は98.7%で生活圏はほぼ山林であり、標高も200m～400mと高く、雨の多い地域としても知られている。

アクセスは町中心部から車で約40分。1日3便運行している町営バス（運賃300円）に乗車なら起点から終点まで約1時間かかる。

人口は1914年の約3000人をピークに減少し、現在では約300人にまで減っている。

◎移住者受け入れの経緯

～1975年～

「地域社会の崩壊・むらの消滅」への危機感が高まる中、有機農業の普及を志す5家族（耕人舎と名乗る）が移住を希望される。



～1977年～

相互に行き来するなど2年にわたる話し合いを経て、1977年に受け入れ。その後、耕人舎が農業実習生の受け入れを行い、しだいに定住者が増加していく。



～1991年～

この頃、人口が600人を下回り、地域活性化の取り組みを強化するため、色川地区区長連合会が「色川地域振興推進委員会」を設立。地域を窓口に移住者を受け入れる体制へとシフトしていく。

◎色川地域振興推進委員会の取り組み

=活動内容=

○組織的な新規定住者の受け入れ

定住後、地域での関わり合いの理解度、地域文化・伝統を守っていくための意識など、定住希望者への面接を行い、定住意思の確認ののち各集落を紹介している。

やみくもに移住者を増やしていくということではなく、へき地での生活環境の苦しさを説きながら、自立を基本として真に移住を希望する方を選別しています。

○体験交流活動の推進

定住や体験希望者のため、短期滞在施設として町立籠ふるさと塾（平成7年開設、旧籠小学校を改修）を運営。定住希望者については、一年間の入居が可能。入居の間に色川の生活や文化を理解、住民とのコミュニケーションを図り、住宅や農地を確保する。ちなみに単身者用4部屋（1日1500円）、世帯用2部屋（月2万円）。

ほかに、オートキャンプ場、産品直売所（併設にカフェ）を管理運営。里山保全活動にも参画し、森林間伐や広葉樹を植林。休憩所や遊歩道、炭焼き窯を設置して交流の場として活用されている。

○色川の情報発信

- ・地域新聞「ほっと色川」の制作と地域全戸配布
- ・ホームページ「ふるさと色川」の運用、SNSでの情報発信
- ・地域情報誌「色川だより」を発行し、全国の色川出身者に届ける



このような取り組みを通じて色川地域の活動が広く知れ渡り、移住・定住の問い合わせや、メディアの取材・行政などの視察に繋がっているといます。

=活動の成果=

- ・新規定住者 174 人（76 世帯）、人口の 50%を超えるまでに。
移住者の子どもたちも大人に育って定住されているご家庭もあるとか。
- ・保育所、小中学校の存続（平成 28 年に小中合同校舎を新築）。
現在の保育園児 8 人、小学生 20 人、中学生 10 人。このうち地元の子どもは 1 人。
ほかは全て移住者の子ども。
- ・青年会や消防団など地域活動への参加・協力者が増え、盆踊りや宮祭りなど伝統文化の継承、また防災面にも大きく寄与されている。
- ・山を切り開き、時間をかけて築かれた棚田を保全する活動により、農山村の景観保全に繋がっている。
- ・地域の主産業は茶業、農業、林業。特産品は色川茶、卵、梅、ゆず加工品などであり、生業として従事する移住者により産業の振興が図られている。

◎町行政と色川地域振興推進委員会の関わり方は

～委員会に対しての運営等に係る予算措置はどうか～

町として、委員会に対し特別大きな予算措置をしていない。

県事業の移住交流推進交付金（県 25 万円、町 25 万円、計 50 万円）をもって地域が進める移住事業の運営に充てている。

その他は、特別交付金 390 万円を交付しているが、集落支援員（地域おこし協力隊）の person 費、月々 20 万円の年間 240 万円をこの中で支出しており、残りの 150 万円を委員会の活動費に回されている。

この交付金の使途については、あくまで地域での話し合いでもって決められている。

ちなみに集落支援員の雇用形態は個人事業主として事業の委託契約としている。

そのため、集落支援員との雇用契約がないこととなる。

～定住者に対しての金銭的な支援はどうか～

国や県の施策での移住者支援はあるが、地域や町で移住者だからという金銭的な支援は特段していない。

支援サービスが大きすぎるとそのサービスが終われば離れていく。

それは本質的な地域活性化策とはいえず、移住者と地域住民の軋轢を生むことだと考えられる。

そのため、町としては移住者の自立の覚悟を持った定住に期待している。

◎取り巻く課題は

- 空き家を他人に提供することの家主の抵抗感が強い。定期的に交渉を続けている。
- 仕事として移住者が生活していけるくらいまで、まだまだ産業の形態が弱い。
- 全国的な移住受け入れ増加に伴い、新規移住者の問い合わせが減少傾向。
- 鳥獣被害により農作物に大きな被害が出ているも、対策への資金や人出が不足。

<このたびの古座川町、那智勝浦町色川地区を訪問しての研修を振り返って>

初日の古座川町ではジビエの取り組みについて学びました。

鳥獣被害の問題は全国各地で大きな問題であります。ジビエの取り組みは駆除されたイノシシやシカなどを食することで命を弔うこと。子どもたちには人間が生きていくためにいただく命のありがたさを学ぶ機会としても大切であると考えます。古座川町では学校給食に取り入れるなど食育にも積極的に取り組まれているように感じました。

ジビエ肉の持つ美味しさや高い栄養価などの認知度もまだまだ低いと思われる現況、ジビエ工房を持続的に、かつ安定収益を上げながら運営していくには今後ともかなり苦勞されていくと思われまます。

他の市町村でも同様の処理施設を望む声が多いことだと思いますが、精肉の流通バランスを深く研究しないと、過剰在庫の処分に苦慮するだろうと感じました。

古座川町のこれまでの歩みはさまざまな課題をクリアして現在に至っております。とりわけ、首都圏への販路確立は労苦の賜物。施設職員においても恵まれた有能なスタッフで運営されており、これからますます飛躍されていくのだろうと思います。

有田川町においても、古座川町にノウハウを賜りながら、鳥獣害問題とともに派生するこのジビエ施策のあり方をより深く探求しなければならないと痛感いたしました。

二日目に訪問した那智勝浦町色川地区では移住定住の取り組みを学びました。

行政が率先した施策として展開されている取り組みではなく、あくまで地域の皆さんが主体となって取り組まれているということに感銘を受けました。

ご多分に漏れず、有田川町におきましても、高齢化・人口減少に伴う山村過疎地の存続が待ったなしの状況であります。

色川地区のように、地域が主体となって考え、実行していくという大きなエネルギーを、有田川町も同様にできるのかという点、非常に難しいことだと推察いたします。

それほど過疎地域の持つ全体の体力が弱ってしまっていると、私も山間地に住む一人として実感するところであります。

現在、有田川町としても手をこまねき衰退を見届けるということではなく、過疎地対策を大きな問題だと位置付け、その一環として定住促進の取り組みもされております。

現在進行中の移住就業支援拠点の整備についても、数社の事業者皆さんが主体となって雇用対策に関して協議された上での動きであり、今後の流れに大きな期待を寄せるところであります。

一足飛びに成果が現われるものではないと理解しつつも、この取り組みが頓挫しないよう細やかな町行政の関わり合いを願います。

東西に大きな有田川町。津々浦々の地域がともに元気になる地域づくりのため、数々の課題を探求し、住みよい有田川町へと向かえるよう研鑽を積む重要性を痛感いたしました。

結びに、このたびの研修は、有田川町の置かれた今後の課題を考える上で、非常に興味深い内容で参考とさせていただく事柄が多く、大変貴重な研修となりましたことをここに申し添え、誠に簡単ながら政務視察研修報告といたします。



古座川町役場

地域振興課

Project General Manager

takanori hosoi

細井 孝哲

〒649-4104

和歌山県東牟婁郡古座川町高池673-2

Tel:0735-72-0180 FAX:0735-72-1858

Mail:hosoi-001@town.kozagawa.lg.jp



KOZAGAWA
GIBIER
山の光工房



古座川ジビエ山の光工房

ドイツ国家認定メッツガー・マイスター

森田 裕三



KOZAGAWA
GIBIER
山の光工房



〒649-4104

和歌山県東牟婁郡古座川町高池673-2

Tel:0735-72-6006 FAX:0735-72-6007

Mail:kozagawa-gibier@zb.ztv.ne.jp



格闘技教室 シヤイアンジム
古座川ジビエ山の光工房
総合格闘家/麻子プロ格闘ファイター



シヤイアン貴裕
Gian Takahiro

Mobile: 080-4807-3339

Mail:giantakahiro08675@gmail.com

和歌山県那智勝浦町

観光企画課 企画係 主査

赤岡 誠
Akaoka Makoto

〒649-5392

和歌山県東牟婁郡

那智勝浦町菜地7丁目1-1

TEL 0735-29-2007

FAX 0735-52-3011

kkkaku06@town.nachikatsuura.lg.jp



世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」

色川地域振興推進委員会

会長

新宅 伸一

〒649-5451

和歌山県東牟婁郡那智勝浦町口色川 2863

携帯: 090-2593-2984

色川地域振興推進委員会

副会長

原 和男

〒649-5461

和歌山県東牟婁郡那智勝浦町大野 1765-1

電話: 0735-56-0553 携帯: 090-4764-1986

E-mail: syurakusaisei@zc.ztv.ne.jp

～内訳～

◎調査研究費

日 程：令和3年7月29日～30日 (1泊2日調査研修)

行き先：和歌山県古座川町、那智勝浦町色川地区

経 費：

交通費

藤並～御坊（乗換）～古座 鉄道代	<u>4,460円</u>
古座～古座川町役場（ふるさとバス）バス代	<u>100円</u>
古座川町役場～古座（ふるさとバス）バス代	<u>100円</u>
古座～串本	<u>200円</u>
串本～紀伊勝浦	<u>510円</u>
那智勝浦町役場前～口色川会館 バス代	<u>350円</u>
口色川会館～那智勝浦町役場前 バス代	<u>350円</u>
紀伊勝浦～御坊（乗換）～藤並 鉄道代	<u>4,790円</u>

雑費

色川地域視察資料代	<u>1000円</u>
-----------	--------------

宿泊費（1泊）	<u>15,000円</u>
---------	----------------

日当（2日分）2,000円×2	<u>4,000円</u>
-----------------	---------------

合計30,860円

◎会議費

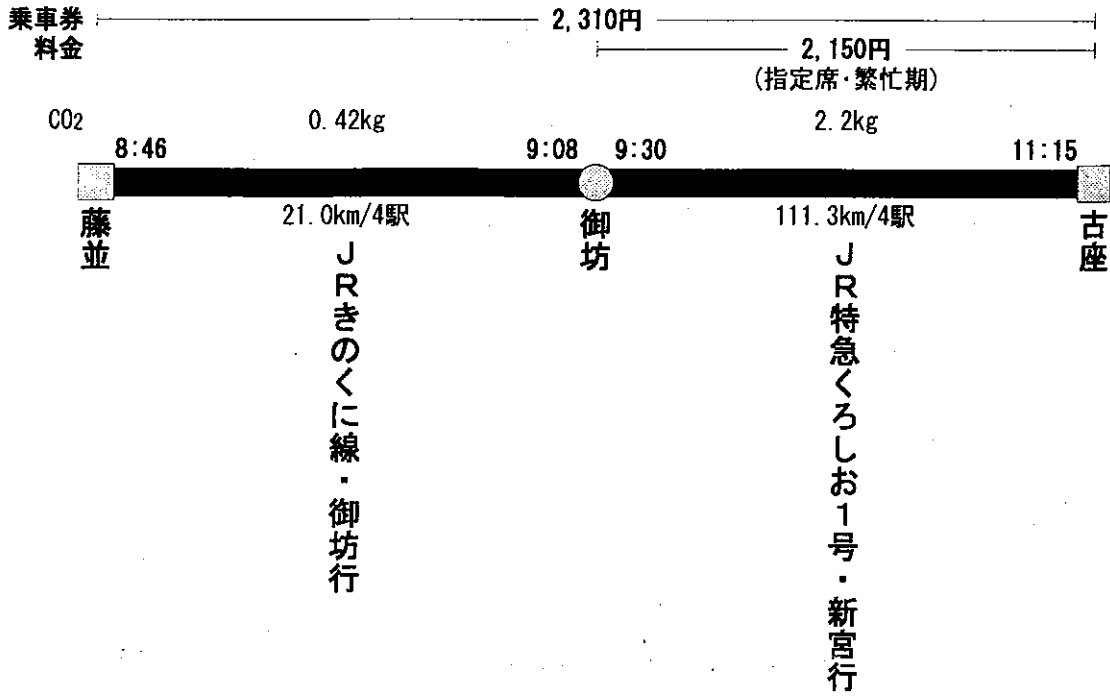
有田地方観光振興議員連盟 年会費	<u>6,000円</u>
------------------	---------------

合計6,000円

藤並 → 古座

探索順 第1/5経路

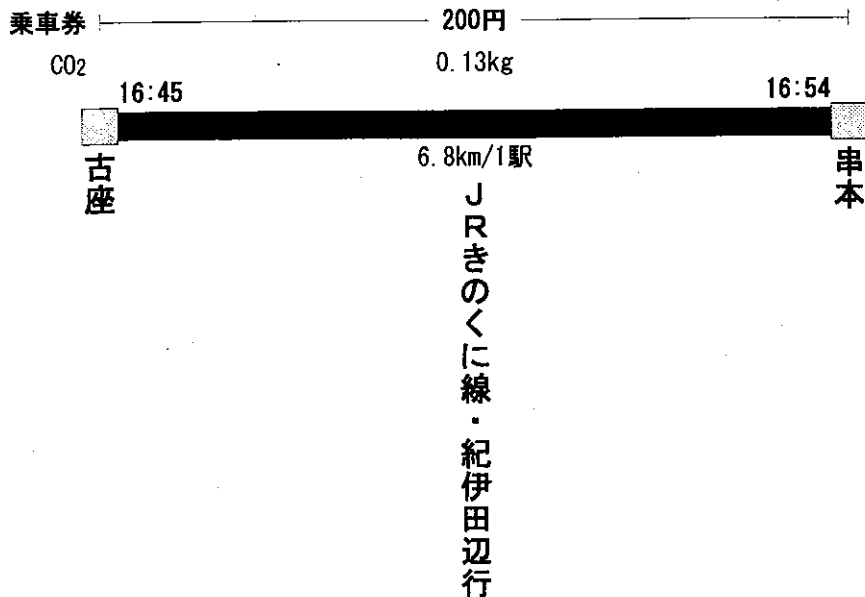
出発日 2021年 7月29日(木) 乗り換え 1回 距離 132.3km
 所要時間 2時間29分 (乗車127分 他22分)
 片道金額 4,460円 (乗車券2,310円 料金2,150円) CO₂排出量 2.6kg (乗車 18.6kg)



古座 → 串本

探索順 第1/2経路

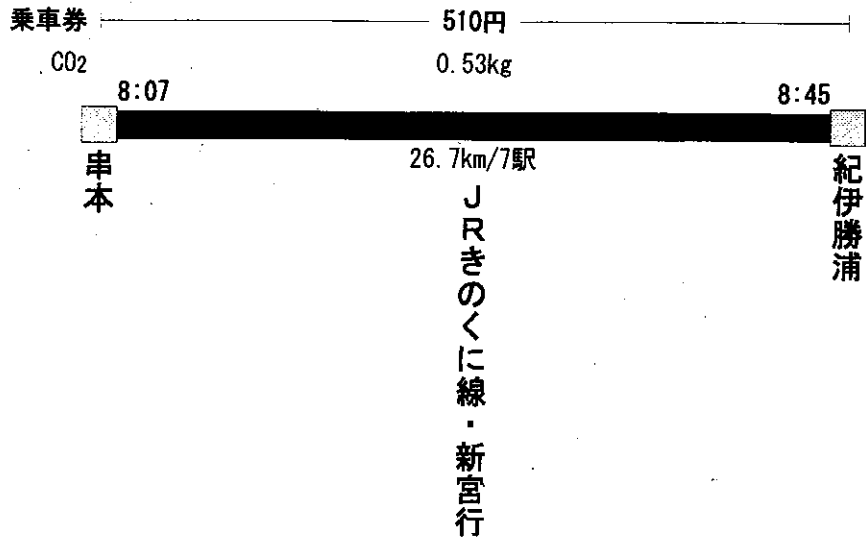
出発日 2021年 7月29日(木) 乗り換え 0回 距離 6.8km
 所要時間 9分
 片道金額 200円 CO₂排出量 0.13kg (乗車 0.95kg)



串本 → 紀伊勝浦

探索順 第1/2経路

出発日	2021年 7月30日 (金)	乗り換え	0回	距離	26.7km
所要時間	38分				
片道金額	510円	CO ₂ 排出量	0.53kg	(車)	3.7kg



紀伊勝浦 → 藤並

探索順 第1/5経路

出発日	2021年 7月30日 (金)	乗り換え	1回	距離	152.2km
所要時間	3時間9分 (乗車162分 他27分)				
片道金額	4,790円 (乗車券2,640円 料金2,150円)	CO ₂ 排出量	3.0kg	(車)	21.4kg

